

文化・交流—新しい地域創造

ロゼ

文化情報誌 ロゼ
Art information of Fuji city
Culture Magazine R O S E
Vol.2 EARLY SPRING 1993

新春号



Vol. 2



身ぶり手ぶりも豊かに…俳優座応接室にて

「創り上げてゆくことのすばらしさを、この素敵な劇場で、みなさんと共に感じたいですね。」

この「ロゼ」新春号発刊にあたり、大変忙しいスケジュールの中、女優の栗原小巻さんにインタビューをさせていただきました。身ぶり手ぶりも交え、とても表情豊かでさわやかなお人柄に、時の過ぎるのも忘れるほど…11月のオープニングイベントで上演の『復活』のヒロイン役で富士市においてになる前に、演劇、劇場、さらに富士への想いを語っていただきました。

栗原小巻

いよいよ本年十一月、幕開けとなるロゼシアター。そのオープニングイベントとして十一月五日～七日、三日間・四ステージ、俳優座の『復活』を上演。今回そのヒロイン・カチューシャ役の栗原小巻さんにインタビューをお願いし、この新春号の巻頭に登場していただきました。

栗原さんは劇団俳優座の看板女優。加えて日本の代表的スター女優であり、国際女優でもある。俳優座養成所の十五期生で、入団した翌年（一九六七年）に出演したNHK大河ドラマ「三姉妹」のお雪役で、「コマキスト」ブームが起る。以来本業の舞台はもちろん、映画、TVで活躍。海外での仕事も多いが決して奢ることなく、チャレンジ精神旺盛で、どんな作品のどんな役でも目いっぱい全力投球し、その仕事マナーや人間性は演劇に携わる人々の良いお手本となっています。

「小さい頃はとても引込み思案で、そんな性格をあらためたいと思い、最初はパレリナになりたくてパレエ学校へ行きました。ポリシヨイバレエ団からいらした先生についていたんですが、卒業後はその延長のつもりで、更に勉強しようと俳優座へ入団したんです。当時、俳優になれるとは全然思いませんでした。」

Komaki Kurihara

栗原小巻 プロフィール

1945年3月14日東京生。1963年東京パレエ学校卒。俳優座養成所15期生。1966年入団。1967年NHK大河ドラマ「三姉妹」で一躍脚光を浴び、TV主演等が多くなり「コマキスト」と呼ばれる熱狂的ファンが生まれる。1967年日本映画制作新協会新人賞、1968年「3人家族」「みつめたり」で日本放送作家協会女性演技者賞、1969年テレビ大賞優秀タレント賞、1971年「そよよ族の乱」で紀伊国屋演劇賞個人賞、1972年「忍ぶ川」で毎日映画コンクール主演女優賞、ゴールデングローブ賞、映画賞、エールフランス女優賞など数多くの賞を受賞。主な舞台では「アンナ・カレーニナ」「マイ・フェア・レディ」「桜の園」「化粧」「恋愛論」「NINAGAWA マクベス」「エセルとジュリアス」「じゃじゃ馬ならし」「ピアフ」「ロマンティック・コメディ」「復活」「三角関係」など。主なTV・映画では「三姉妹」「風林火山」「戦争と人間」「忍ぶ川」「望郷・サンタカン八番娼館」「モスクワわが愛」「八甲田山」「別はつらいよ」「戦争と青春」など数多くの作品で幅広いファンを持つ、日本の代表的女優である。



インタビューにも気さくに応える

ます。今は町単位で劇場をつくるまでになっています。全国いろいろな所へ行きますから、是非とも生の舞台をみていただきたいですね。ちなみに本年一月前半は、ロシアのマールイ劇場の日本公演の声での出演。二月いっぱいには大阪「飛天」で、オリジナル作品「シラノ」。これは「シラノ・ド・ベルジュラック」を安土

らは『復活』の稽古公演と、なんと一年の九ヶ月は舞台の仕事。数多い仕事の中で、印象に残っている劇とが役は。

「皆気に入っています。たくさんありすぎて困るくらい。それぞれ思い入れがあり、演じる作品がなくなってしまうんじゃないかと思うほどいろいろな劇をやってきました。」

地方都市における劇場、演劇については、「劇場も増え、とても良くなっています。でも一〇〇〇人位の劇場がとても演り易い。お客様と一緒に、その日の状況で劇を創り上げて行くことのできるキャバだからです。でも逆に、その劇場の大きさにふさわしい劇を創って行くことも必要です。二つの面からのアプローチで、演劇も劇場もより身近になります。お客様も良い劇場で見れば好きになるし、完成度の高いものが創れます。」

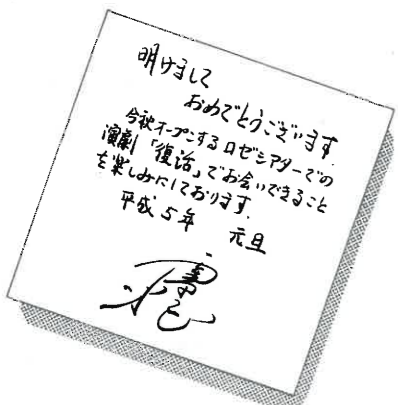
ロゼシアターで上演される『復活』は、平成三年度の芸術祭賞を受賞した作品。「この『復活』は過去何度も素晴らしい劇として上演されましたが、今回はそれとは違う脚色がなされています。脚本自体は原作に忠実ですが、その場で創り上げて行く作業をととても重要視したものです。偶然にも稽古の初日に、ロシア（当時はソ連）にクレーターが起きたんです。劇自体が革命と革命の間の揺れている時代の話なので、とても忘れられない印象的な出来事でした。」

どんな舞台になるか今から楽しみです。ところで、富士市には二度目ですが、

「そうですね。静岡県は文化圏として劇場の数が多くて良い所ですね。八十九年には、静岡市の護国神社で「蜷川マクベス」を上演しました。俳優座公演の「エセルとジュリアス」では、浜松・浜北・島田・富士・富士宮・沼津・三島・伊東…全部で十二ヶ所も廻り



色紙へのサインも快く



桃山の時代劇に書き下したもので、平幹二郎さん、草刈正雄さん、ロクサヌこと小夜姫役の栗原さんというメインキャストで、大変興味深いもの。三・四月は各地を公演。五月七月は映像の仕事予定。八月十月は弟さん演出の「ロマンティックコメディ」。十月か

富士市文化の未来を見つめるシンボル マーク、英知と豊かさを象徴するロゴ

昨年七月、文化会館の愛称「ロゼシアター」が決まり、みなさんに親しまれていますが、財団では続いてシンボルマークとロゴの制作に入り、市内外の大手印刷会社五社により指名競技を行いました。そして、あらかじめ委任してあった専門家による審査会で審査していただき、この作品が決まりました。

このシンボルマークは、華やかなバラの花をモチーフに「新しい市民文化の発展と広がり」をシンプルに構成、中央にある大きな点は未来をみつめる眼とともに文化を表現、周囲の三つの点は富士山を表し、同時に市民（人）、

街（産業）、自然を象徴、バランスを保ちながら連帯と調和を意味し、そして「ロゼシアター」が雄大な富士山のもとでよりよい市民文化の核となるように……と制作されています。

また愛称ロゴは、英知の豊かさをイメージさせる繊細な書体で全体を構成、筆書きの「丸」は自由と創造を意味し、中の色はバラの花を、緑色のラインは広がりや象徴し、市民文化の自由な交流と発展を意図し制作されています。これから愛称とともにポスターやパンフレットなどいろいろなところで使用していきますので、どうぞみなさん、末永く可愛がってください。



オープンの期待を担って、 イベントはいずれも大盛況!!

ロゼシアターのオープニングにさきがけて、昨年さまざまなイベントが行われました。八つのコンサートはいずれも大盛況。オープンに対する市民のみなさんの期待の大きさがうかがえます。



「星空のコンサート」
10月10日
このイベントは野外コンサートで、中央公園の演奏会場は虫の音も加わり、大勢の聴衆とともに、まんまるのお月様も空から耳を澄まして聴き入っているようでした。



「サウンドオブミュージック」
8月1日
イベント第2弾、二期会によるミュージカル公演は富士子ども劇場のみなさんにもお手伝いをいただきました。この公演には富士市出身の小澤颯子さんが出演、終演時花束が贈られました。



「新人演奏家と子どもたちのコンサート」 6月6日
第1回オープニングイベントとして富士市出身の新人演奏家と子どもたちによるジョイントコンサートを開きました。フレッシュな演奏にこの日の会場は温かい声援と拍手に包まれました。



「まちかどコンサート」
10月24日 12月22日
バラエティーに富んだイベントをということで「まちかどコンサート」を企画、会場となったR新富士駅構内のやすらぎ広場には、バンジョーとハンドベルの澄んだ音色が溢れました。



「ロゼ映画音楽・名曲コンサート」
11月1日
このコンサートはロゼシアターオープニング1年前を記念して企画しました。気軽に楽しめるポピュラーコンサートだったこともあり、この日集まった満員の聴衆は素晴らしい名曲の数々を堪能しました。



「学校コンサート」
10月～11月
21世紀に飛翔する若者たち、次の時代を担う中学生のみなさんに生の演奏を味わってもらうため、プロの演奏家を招いて市内8中学校の体育館でコンサートを開きました。



ヤマハHS-700E

スタインウェイD-274

文化を見守るあたたかな思いが込められた 二台の素晴らしいピアノが寄贈されました

「ロゼシアター」にはピアノが八台設置される予定です。このうちホール用として、現在世界最高級といわれるドイツ製のフルコンサートグランドピアノ（スタインウェイD-274）が、ポリプラスチックス㈱（本社・大阪市春日卓三社長）から寄贈されました。同社は富士市に二十五年前に進出しており、会社創立三十周年を記念して新文化会館にピアノを寄贈することになったものです。昨年九月二十五日に市庁舎で、目録の贈呈式が行われました。

また、十二月四日には、国際ソロプチミスト富士（代表・船村サチ子氏）からレセプションホール用にセミコンサートグランドピアノ（ヤマハS700E）が寄贈（目録）されました。このピアノは、レセプションホールでの気軽なサロンコンサートなどに使用されることになっています。



「ロゼシアター」で
リサイタルが夢
小沢颯子さんにインタビュー

富士文化センターにて

八月一日公演のミュージカル「サウンドオブミュージック」に出演するため来富した小澤颯子さんは、郷里の舞台に立つ感想を次のように話してくれました。

富士文化センターでの公演は初めて。久しぶりに富士に来て緊張しています。これまで全国で公演を行ってきましたが、89年にヨーロッパ公演に出かけた際、ベルリンの壁の崩壊に合点、貴重な体験をしました（もちろん公演も大成功）。

ロゼシアターには期待しています。若い人に大いに活用してもらい、富士市からたくさんミュージシャンやアーティストが誕生すると思います。私も是非、リサイタルをやってみたいと思います。

（プロフィール）
富士市御幸町に生まれ、4歳でピアノをひく。吉原小、吉原一中時代は水泳部で活躍。途中から合唱部に移行し吉原高校から武蔵野音楽大学音楽科に進む。卒業後二期会合唱団に入団。現在フリーで活躍中。

文化振興財団が独自に企画し、公演を実施した二大イベント「市内8中学校で行われた合唱と打楽器による学校コンサートには、また11月1日開催したロゼシアターオープニングかつて青春の血を燃やした年輩の方々も訪れ、秋の日財団には、感動の声が数多く寄せられ

校コンサート」「ロゼ映画音楽・名曲コンサート」は各会場とも大盛況でした。校生が集まり、生の演奏に目を見張り、感嘆の声をあげていました。1年前記念の映画音楽・名曲コンサートには、の昼下がり、珠玉のメロディーに酔いしれていました。ましたが、その一部を紹介しましょう。

生演奏のパワーとスピード感を体験
迫力のある音を体で感じた「学校コンサート」



さまざまな想いがめぐる、心温まる演奏
名場面が音となって甦った「映画音楽名曲コンサート」



- とてもよかったです。知っている曲が多かったので、とてもなじみやすかったです。
(清水・女性・22歳・プログラマー)
- 親しみのある名曲をたくさん聴けてとてもとても嬉しかったです。
(吉原・女性・47歳・会社員)
- 本日は、好きな音楽を身近に聴くことができてとても幸せなひとときでした。
(吉原・女性・40歳・パートタイマー)
- 感激しました。企画された職員の苦労が理解されました。
(吉原・男性・50歳)
- 酔いました。ロゼシアターで聴くのが楽しみです。
(富士・女性・40歳)
- 秋の日に生で、こんなステキな演奏が聴けて本当によかったです。
(富士・女性・25歳・公務員)
- 富士市でこのような音楽を楽しむことができると思いませんでした。(富士・男性・32歳・会社員)
- 念願のドラゴンクエストの曲が聴けて、大歓喜！
編曲もすごいよかったです！
(吉原・女性・37歳・主婦)
- 聴衆のマナーもよく、満席に近い状態で聴くと熱気がよく伝わり、すばらしい。
(吉原・女性・40歳・主婦)
- 学生時代に戻ったような気分、子供との触れ合い、心暖まるひととき、すばらしいのひとことです。
(富士・女性・47歳・主婦)
- 秋の日の二時間余、名曲のご馳走をお腹一杯いただき、とても満ち足りた気持ちで過ごすことができました。
(富士・女性・44歳・主婦)
- 今は亡き主人との思い出をよみがえらせてくださいます。本当にありがとうございます。
(鷹岡・女性・55歳・公務員)



- 僕はこういうクラシック音楽が好きなのでとても楽しみにしていた。このような演奏を聴くと心が豊かになったような気がします。
(一年・男子)
- 僕はシルクロードファンタジーが好きで、今日の演奏を聴き、心の底からすばらしい曲だなあと感じた。
(三年・男子)
- 初めてプロの人達の合唱を聴いた。少ない人数なのに、歌声が大きくきれいだった。ロゼシアターが出来たら、是非またやってほしい。
(三年・男子)
- 三匹の熊蜂の飛行・剣の舞の木琴、マイウェイのハンドベル、八木節の打楽器と全体的にとってもいい演奏会だった。
(三年・女子)
- とてもいい演奏だった。様々な打楽器の音がからみ合って、スピードとパワーで駆けめぐり身体中がドキドキした。
(二年・女子)
- ため息が出るほどすばらしい演奏だった。生演奏が楽しめて本当に幸せでした。
(二年・女子)
- すごく感動しました。人にあこがれや、夢をプレゼントできるってすごいと思います。
(二年・女子)
- とてもすばらしかった。演奏の人達が僕達に本当の音楽を伝えようとする気持ちが伝わってきて、僕は胸が熱くなった。
(三年・男子)
- 僕は席が前だったので、自分の身体が音楽の世界に入り、手先の器用さに目も動かすことができないう状態でした。
(三年・男子)
- 私は今回演奏された曲の中で、一番よかったのはマイウェイでした。ハンドベルの音がとてもきれいだったからです。静かで優しくてみんなもきつとその音を聴いて、心に感じるものがあつたのではないかと思います。あの時、体育館の中がシンとよくなったから……。
(三年・女子)

会館が曇らないような街づくりを

ものまねタレントとして活躍中の布施辰徳さんに、富士市の文化と文化会館についてお話を伺いました。布施さんは伊東市のご出身で、仕事で富士市を訪れ、タレントとしてデビューするまでの八年間を富士市で過ごされました。

「今は東京に住んでいるんですけど、たまに仕事で富士の方へ来ると、帰ってきたっていうイメージがあるんですけどね。歌うことは人一倍好きでしたが、カラオケが置いてある所はほとんど行きませんでしたね。バイトしていたスナックでも、うるさいって言われても歌っていませんでした。」

地方から見た富士市の文化について「文化というのは土地土地個々で違うでしょうね。例えば富士市で、夜中にアーケードとかで座ってギター弾いてる人って見ないですよ。これが東京とか大阪とかになると必ずいるんですけどね。そういうのは都会のノリで、富士でやったとしても似合わないですよ。というの、何しろ夜とか人通りが少ないでしょう、誰も聴いてなかったりして。それだったら家でやっていると一緒でもなん。だからそういう意味だと、やっぱり、街がそういうにっているって部分はあんじやないですよ。人間づくりというか、土地によって全然違うものになっていくんじゃないかと思えます。」

から偉い方がよく来て、でもその割には接待できるようないいお店も、そんなにないですよ。富士市に、そういう部分で、僕自身で住んで、ああ中途半端だなんて思ったときもあるんです。じゃあ静岡に行こうか、沼津行こうか。もともとそう考えていくと、沼津行かないですよ。沼津に住んでいる人は、じゃあ富士の方でも行ってみようかとか。結局、自分が住んでるから飽きてるってこともあるんじゃないでしょうか。マンネリ化してるから他へ行きたいっていう。でも、どこへ行っても、やっぱり自分の土地や文化が一番かわいんじゃないですか。住めば都ですから、富士の人はやっぱり富士がかわいと思いますよ。不満があったとしてもね。」

新しい文化会館については「びっくりしましたね、あれね。あの前の道路を通ったら、工事現場の廻りの柵に、内装とかの絵が貼ってあるじゃないですか。あの中ホールとか、立体的でかっこいいですよ。僕なんかもそれ見たときは、いつかここで看板として来て歌ってみたいなと思ってましたよ。富士市も思い切ったことやりましたよ。」

もともと、吉原の市民会館も、随分と古かったですからね。いつだったか、夏頃だったかな、仕事で入ったことがあるんですけど、年輪ですね、豊とかね、照明とか見ても。ああ頑張ってるなって感じて、何か逆に壊すのも勿体ないような気もしますね。でもそんなことを言っていたら発展はないだろうし。」

新しい文化会館って、いい場所にありますよね、意外とね。東名から下りてきても数分、新幹線からも確か直線ですよ。場所的には最高に分かりやすいんじゃないですか。これだけ分かりますと、逆に迷子になる人を見てみたいですね。」

「シアターっていうのは懐かしい名前ですね。ロゼっていうのはワインじゃなくてバラの方ですか。壁のどこかにバラを一輪、すくくちやく描いておいて、それを探させるとしたら面白いんじゃないですか。絶対分らないですよ。」

富士市を文化交流の中心点に

昭和の初期に多感な少年時代を送った私は、娯楽の少ないことも手伝って音楽にどっぷりつかっていた。まだラジオと蓄音器くらいしかなかった当時この辺で（駿東郡浮島村）ラジオは床屋に一台しかなく貴重品だった。そのラジオを無理に買ってもらい、学校から帰ると歌でも演奏でも、音楽であれば何でも聴いた。東海林太郎、ディック・ミネ、渡辺はま子など、今でも忘れられない歌手である。

その後、いつしか私はクラシック音楽の世界に心を奪われていった。主にドイツゲルマン民族系の作曲家の音楽が好きでよく聴いた。ワルター、フルトベングラー、トスカニーニ、カラヤンと愛聴した音楽家の名前を挙げるときりがない。クラシック音楽との絆はますます深まっていき、文字どおり心の糧となっていた。

いまはCD全盛の時代であるが、技術革新の恩恵に浴している反面、音楽自体、内容が希薄になっていないだろうか。SPレコードに録音された音楽は、音は悪いが心がこもっており、何となく音楽に香りがある。私はいまでも真空管アンプでそれらを聴いている。近年CDも古い録音の複製盤がたくさん出てきた。名演奏とよばれる音楽がこのようなかたちで甦（よみがえ）ることは大変よろこばしいことである。

このように科学技術の発達、音楽の世界でも音のよさ、形のよさが大きい

にもはややされているが、今後の課題は、ソフト面でいかに魂を入れてゆくかであろう。最近よく言われる「文化」についても、あちこちの文化の寄せ集めといった感じがする。技術とか、合理性だけにたよらない手作りのよさをもう一度見直し、にじみ出るような温かさが感じられる「文化」というものを追求していきたいものだ。

昭和二十八年三月、日比谷公会堂でギーゼキング（ドイツのピアノリスト）のモーツァルトを聴いた時のことである。あまりの素晴らしい感動した聴衆はただ叫ぶだけでなく、ステージに群がり、果ては上がりこむ者まで出た。いまでもそのコンサートなどで、拍手と歓声で演奏を称えるのが普通となっているが、日本ではこのギーゼキングのコンサートの時が最初である。楽譜を頭で憶えてしまえば自然に手が動いてくれると自ら語っているように、その曲を完璧に再現できる稀有なピアノリストであった。モーツァルトのソナタ全曲を録音したCDはいずれもよいが、やはりベストは戦前のSPである。そのうちの一枚、ピアノ協奏曲第九番ジュノム（LP米ワルター協会）はいっ聴いても何度聴いても、飽きることがない。本物の音楽とはそういうものである。

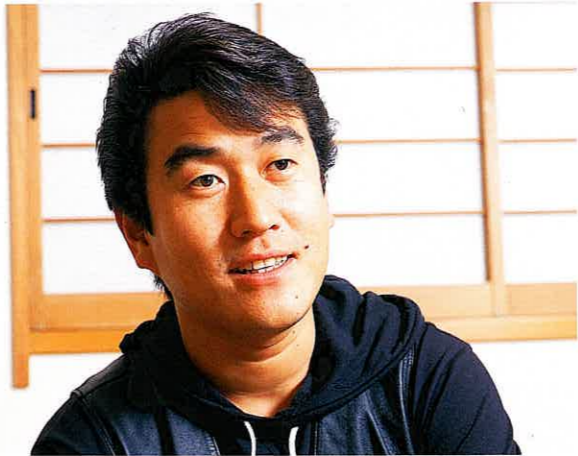
ベーム、カラヤンも居なくなつて、十九世紀以降の文化を感じさせる演奏家が少なくなり淋しい気もするが、時代の流れで致し方がない。いまは丁度

過渡期にあたり、二十一世紀の文化を担う若手演奏家が横一線に並んでいる。その中でカルロス・クライバー（指揮者）あたりが大いに期待したい。ロゼシアターも既成の有名人だけでなく、将来性にとんだアーティストをよんでほしい。富士市で評判になり、それをきっかけにして大成したとなれば素晴らしいではないか。

文化交流の場も道から始まる。音楽の都ウィーンは、交通、文化交流の中心点であった。静岡県の「文化」も東海道五十三次のうち二十二が県内にあることからの影響が極めて大きい。道は大切である。土着の「文化」も尊重すべきだが、交流によってよりよいものに醸成してゆくことこそ大事なことである。幸いロゼシアターに関して一応道は確保されている。さらに乗用車やバス、電車などの接点を具体的に探求してゆくこと、それは意欲にとむ独創的な企画と相俟って、「富士市の文化」の創造と育成には欠かすことができないものと確信している。（談）

タレント 布施辰徳 PROFILE

ふせ たつり/伊東市生まれ。
高校卒業後、仕事で訪れた富士市で8年間を過ごす。
1987年、静岡けんみんTV「夢のカラオケグランプリ」で優勝、スーパーグランドチャンピオン大会を経て、ものまね界に入る。1992年8月、フジテレビ「日本のまね大賞」で優勝。9月、「ものまね王座決定戦スペシャル」で優勝、12月、「爆笑ものまね王座決定戦」に準優勝。
ものまねのレパートリーは70を超え、実力派新人として注目されている。趣味のスポーツカイトではワールドチャンピオン大会にも出場している。特技のゴルフではプロを目指したことも。



元富士市文化会館建設市民懇話会委員

今枝愛真

PROFILE

いまえだ あいしん 駿東郡浮島村船津(現富士市船津)生まれ
沼津中学(現沼津東高)、旧制静岡高校、東京大学を経て
昭和23年東京大学史料編さん所入所、昭和47年東京大学教授、
昭和56年同史料編さん所所長、昭和62年同名誉教授
昭和49年3月 当時の昭和天皇・皇后両陛下、皇太子・同妃殿下に御進講申し上げる。
昭和59年4月 静岡県史編さん専門委員長の委嘱を受ける。
現在生家の興隆寺住職を務める傍ら、県史編さん専門委員長の他、
国と県の文化財審議委員などの要職を担っている。



「富士市民器楽合奏団」から、昨年「富士マンドリンクラブ」と改称して今年で十八年目(昭和五〇年十二月結成)。ホビユラーを主体にクラシックから民謡まで幅広いジャンルの音楽を、マンドリン、マンドラ、ギターのアレンジで楽しむクラブです。

現在クラブ員は十七名。毎年一回(秋十月末〜十一月)に定期的にチャリティーコンサートを開催し、富士市の文化祭にも毎年出演。さらに二年一回、静岡県内のマンドリンクラブが大集合するフェスティバルと、富士山が見える所なら県外でも参加できるという、フジマンドリンフェスティバルが開かれ(二年に一回)、この大きなイ

音を出す、音を重ねる、合奏する楽しさを満喫しています。

絵画・音楽・文学など、富士市にはさまざまな文化活動を展開しているグループやサークルが沢山あります。第二回目は、さわやかなアンサンブルを響かせる、富士マンドリンクラブを紹介します。

富士マンドリンクラブ

(旧称・富士市民器楽合奏団)



イベントが交互にあるため、発表の機会が年三回あるのも楽しみです。年令層も二十三才〜六〇才まで幅広く、マンドリンやギターの知識が何もなくても、興味さえあれば気軽に参加できます。

今後の目標は、地域に根ざした活動をさらに続けクラブ員を増やし音に厚みをつけること、全体のレベルアップのためにも県のフェ

スティバルにも積極的に参加すること、富士に有名なマンドリンクラブを呼び、ロゼシアターでコンサートを開くことです。クラブ員それぞれが自立的に動き、和気あいあいとした中で、とても爽やかなアンサンブルが流れ、音楽とは本当に音を楽しむものだなあと感じました。詳細及びお問い合わせは、下記の通りです。

音楽に興味があれば、どなたでもOK!!

- 練習日時/毎週水曜日PM6:30~9:00
 - 場所/伝法公民館(月3回) 岩松公民館(月1回)
 - 参加対象/年令・経験すべて不問
 - 会費/月300円、合宿費用に月1,000円の合計1,300円
 - その他/全く楽器が弾けなくても初歩から指導します。
- 問い合わせ/0544-24-5244(金森) 0545-52-7730(金沢)まで



編集後記

新年あけましておめでとうございます。ロゼシアター元年の幕明けに「ロゼ」2号を発行でき、まずはひと安心。お陰様で1号の評判がよく2号の編集にも力が入った▼クラシックバレエの雰囲気の本誌のフォトイメージに、そんな気持ちで表紙を制作した。練習の合い間にシューズを直す少女の姿が美しい、喝采を浴びる彼女の初舞台とロゼシアターのオープニングイメージが遠くで重なった▼続いて栗原小巻さんの登場、華のある女優に巻頭を飾っていただけなら、このほのかな願いが実現。まさに夢がかなった感じで年初から幸先がよい▼会館工事も順調、財団事務所には「ロゼシアターオープンまであと○○○日」のカウントダウンのパネルが掲げられた。一日一日と緊張が高まってゆく。

富士市文化情報紙「ロゼ」

一九九三年一月発行(第二号)

発行

富士市文化振興財団

〒四一七

富士市永田町一丁目一〇〇番地

TEL(〇五四五)五一一〇二二三(代)

企画編集

富士市文化振興財団

アドスエービック株式会社

EVENT INFORMATION

富士市のいち早くホットな文化情報を満載

ロゼシアターのオープニングにはどんなものやるの?チケットの予約はいつから?そんな声をよく耳にするようになりました。

いま財団では、オープニングに向けて公演スケジュールを練っている最中です。若い人から高年者まで、幅広い層のみなさんにご来館いただき、楽しんでいただくにはどうしたらいいか苦心しています。

開館まで残り九か月と迫った現在、公演名称・出演者等に未確定の部分はまだありますが、財団の自主事業として日程が決まった催物を紹介しましょう。

詳細についてお知らせできるのは五月頃の予定です。その時はイベントニュースとして市内の全戸に配布しますので、しばらくお待ちください。

プレイベント 平成5年

5・15(出) 新人演奏家コンサート (富士文化センター)

5・26(月) 学校コンサート (市内5中学校)

7・29(木) 林哲司&クラクラコンサート (富士文化センター)

オープニングイベント

11・1(月) フォルクスオーパー管弦楽団

&メラニー・ホルティオオペレッタ公演

オーケストラのウィーンは、クラシック音楽のメッカである。ウィーン国立フォルクスオーパー管弦楽団は、ウィーンでオペレッタを主要演目とするフォルクスオーパーホルの専属オペケストラである。このホールは一八九八年に開館され、第二次世界大戦以来オペレッタの殿堂として、ウ



ーン市民に愛用されている。

このオペケストラが、世界的に有名なオペレッタの華メラニー・ホルティ(ソプラノ・映画にも出演)他男性テノールのソリストとともに十一月一日来富。J・シュトラウス等の本場喜劇劇をたっぷり聴かせてくれる。

11月

3(水) 芹洋子ファミリーコンサート (ゲスト:さとう宗幸)

5(金) 劇団俳優座公演「復活」 栗原小巻他出演 (巻頭インタビュー参照)

7(日) 庄村清志 ギターコンサート

9(火) マランド楽団 タンゴ

10(水) コンサート

16(火) イーヴォ・ポコレリッチ

26(金) 柳家小三治&日本音楽集団

28(日) 能・狂言公演(勸世流宗家)

12月

3(金) 前橋汀子

5(日) 石川さゆりリサイタル

15(水) ロシア・キーロフバレエ公演

くるみ割り人形

ロシアのサンクト・ペテルブルクは十八世紀の初頭に建設された世界で最も美しいといわれる都市の一つである。キーロフバレエはこの都市にあるバレエ団で正式にはキーロフバレエマリンスキー劇場サンクト・ペテルブルク・バレエ団とよばれ、革命家キーロフの名をとったキーロフ記念サ



ンクト・ペテルブルク・オペラ・バレエ劇場(通称キーロフ劇場)に所属しているため、こう呼ばれる。

ロシアバレエの代表作「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」など、多くの作品を初演し、モスクワのポリシヨイ・バレエとともに、ロシアを代表する世界的に有名なバレエ団である。

26(日) 林哲司コンサート 「富士ルネッサンス」

平成6年

1・30(日) 新日本フィルハーモニー

交響楽団コンサート

2・4(金) 日本民族舞踊団公演

3・23(水) NHK交響楽団コンサート

このほか日本画・版画・洋画に關したような作品展を予定しています。

平成5年10月31日〜11月10日。平山都夫展(日本画)

平成5年12月18日〜26日。牧野宗則展(版画)

平成6年1月。野田好子展(洋画)

※日程等変更になる場合があります。

インフォメーション

- 富士文化センター
- 2・14(日) 富士見高校吹奏楽部定期演奏会
- 25(金) わらび座「ブナがくれた笛」
- 27(日) ピアノデュオ リサイタル
- 28(日) 子どものための創作歌謡夜 牛若丸
- 3・20(出) 富士交響楽団ポツポツコンサート
- 21(日) ピアノ・マリナー発表会、石川ますみ
- 25(木) 富士東高校吹奏楽部定期演奏会
- 28(日) 富士高校吹奏楽部定期演奏会
- 4・11(日) 市村ひろみメソソプラノリサイタル
- 25(日) 富士交響楽団新譜紹介コンサート
- お問い合わせは富士文化センター01-62002
- 吉原市民会館
- 2・6(出) 富士市小中学校園工美術展
- 3・21(日) 等々八演奏会
- 28(日) 富士市少年少女合唱団
- お問い合わせは吉原市民会館 52-0740

ロゼシアターご利用の案内

ロゼシアターの各施設を使用する際の案内冊子ができました。使用申し込みの手順、申し込み期間、受け付け時間をはじめ各施設の使用料一覧表などがより込まれています。大・中・小ホールの申し込みは、使用する日の1年前、その他の施設は6か月前から申し込みができます。現在、平成6年1月からの受け付けを開始しています。申し込みを行う方は、富士市役所8階の富士市文化振興財団へお越しください。(問い合わせ(0545)51-0123内線2812-3)

